

四季鳥の鳥

私たちの近くに息づく野生

「文・写真」 中田一真

コウノトリ —46年ぶりの巣立ち—



コウノトリ コウノトリ目コウノトリ科
全長 112cm

【撮影地】兵庫県豊岡市

なかた・かずま

1966年生まれ。会社員、野鳥写真家。
身近な鳥たちの四季折々の姿を20年撮影し続けている。

【中田一真のホームページ】

<http://www.asahi-net.or.jp/~jx7k-nkt/>

2007年8月、兵庫県豊岡市
でのこと。「ピー…、ピー…」壊れた
笛のような音が聞こえる。一羽のコ
ウノトリが腰を^{かが}屈め、翼を震わせな
がら鳴いていた。餌をねだっているの
だ。親鳥は消化した魚のようなもの
を吐き戻し、子どもに与えた。

幼鳥の名はニッタン。彼女が生ま
れ育った人工巣塔に近い新田小学
校に^{ちな}因んでつけられた愛称と聞
く。わが国で46年ぶりに野外で巣
立ったコウノトリだ。

日本のコウノトリは、かつて里山
で暮らす身近な鳥だった。乱獲、営
巣木の伐採、餌となるドジョウやカ
エルの農薬汚染、土地改良や河川
改修による餌場の喪失…。われわ
れヒトの暮らしの変化に^{ほんろう}翻弄され
ながら、彼らは数を減らし続け、
1971年、ついに野外から姿を
消した。

その鳥の親子が今、目の前にい
る。生きている。動いている。
人工飼育開始から40年以上の歳
月をかけ、豊岡の人たちが再び^{とま}点
した命の灯。私たちが二度と消し
てはならない灯がそこにあった。

©NAKATA Kazuma